

お車でお越しの方へ



駐車料金について

【外来診療の方】

正面、第3駐車場

入庫から6時間無料

第2駐車場

入庫から7時間無料

【ご家族・お見舞いの方】

正面駐車場

入庫から30分無料

以降60分400円／最大800円

第2駐車場

入庫から4時間無料

以降60分200円／最大400円

第3駐車場

入庫から60分無料

以降60分200円／最大600円

院内駐車場の利用制限について

平日正午までは、妊婦、身体障害者、高齢者等の方のご利用を優先させていただきます。

送迎車について

送迎車運行経路

第2駐車場から病院まで無料で送迎車を運行しております。(運行時間は午前7時30分から午後3時まで)

笠置町役場から約25分

和束町役場から約25分

南山城村役場から約30分

公共交通機関でお越しの方へ



JR木津駅西口から

徒歩1分

近鉄山田川駅から

バス約10分、
JR木津駅前下車
徒歩1分

京都山城総合医療センター

京都山城総合医療センター

〒619-0214 京都府木津川市木津駅前一丁目27番地
TEL.0774-72-0235 (代表) FAX.0774-72-2155

最新情報は
ホームページを
ご参照ください。

<http://www.yamashiro-hp.jp/>

京都山城総合医療センター

検索

病院
ホームページ



産婦人科
ホームページ



公式
Instagram



R8.7月発行

京都山城総合医療センター

令和8年度
診療科
ご案内



院長挨拶

京都山城総合医療センターは、地域の中核病院である地域支援病院として、病院基本理念に基づき地域住民の方々の健康維持・推進に貢献し、「他を想う」の精神で患者中心の医療に取り組み、頼られ、愛される病院になることが目標であり、希望です。

急に発症する病やケガと向き合う救急医療、今や2人に1人が罹患する「癌」と向き合う抗がん医療、がんの早期発見に取り組むなどの検診医療、大切な次の世代を守る周産期・小児医療、長期の治療が必要な糖尿病や高血圧、慢性腎臓病、心疾患などの慢性疾患医療、人生の締めくくりと向き合う緩和医療、生活に寄り添う在宅医療、そして健康な住民を巻き込む災害活動と向き合うための災害医療、様々な医療に対して、患者中心に当院の各科専門医たちが密に連携して立ち向かっています。

住民に信頼される良質な医療を提供するべく努力し、地域医療を支える当院の各診療科と医師たちを紹介します。

京都山城総合医療センター
院長 山口 明浩



【病院基本理念】

地域の中核病院として、
信頼される良質な医療を提供し、
住民の健康維持・推進に貢献する



病院基本方針

- 地域医療支援病院としての機能や体制を整備し、質の高い地域医療を実現する。
- 地域がん診療病院、地域災害拠点病院、周産期医療2次病院としての機能を充実させる。
- 地域の医療機関や福祉・介護施設との連携を強化し、より良い地域包括ケアシステムの構築に貢献する。
- ホスピタリティの向上に努め、患者さん満足度の高い医療を提供する。
- 医療安全管理の徹底をはかり、安心して医療を受けられる体制を堅持する。
- 教育・研修を通じて優れた医療人を育成するとともに、各職種の連携によるチーム医療を推進し、高度な医療を提供する。
- ワークライフ・バランスを考慮した、働きがいのある職場環境づくりに努める。
- 公益性を求めつつ、長期にわたり良質な医療が提供できるよう健全な経営基盤を確立する。

患者さんの権利と責務

- 診断や治療方針について十分な説明を受けることができます。
- 自分の意志に基づいて医療の方法を選択することができます。(意思を表明できない場合や未成年の場合には、法律上の権限を有する代理人が患者さんの代わりに意思決定をする権利を持っています。)
- 適切な医療を公平に受けることができます。
- 診断や治療方針について他の医療機関に意見を求めることができます(セカンドオピニオン)。
- 個人情報とは十分な配慮をもって保護されます。
- 医療を受けるうえで、常に自己の尊厳性は尊重されます。
- 自分の健康情報を医療者に正確に伝える責務があります。
- 医療が安全かつ効果的に行われるよう、医療者と力を合わせて積極的に医療に参加し、協力する責務があります。
- 病院の秩序を守り、医療を受けるうえで他の患者さんや医療者の支障とならないように行動する責務があります。
- 子どもの権利は、当院は小児科学会の「医療における子どもの憲章」に準拠します。

病院概要(抜粋)

病 床 数	一般病床:335床／感染症病床:10床	医 療 機 能	・救急告示病院 ・地域災害医療センター ・エイズ拠点病院 ・周産期医療2次病院 ・京都府地域リハビリテーション支援センター ・京都府認知症疾患医療センター ・地域がん診療病院 ・京都府在宅療養あんしん病院 ・地域医療支援病院 ・基幹型臨床研修病院
診 療 科 目	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ科、脳神経内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科		

*表紙掲載の写真の木津川市、笠置町、和束町、南山城村の写真は各市町村のご厚意により掲載させていただいております。
*掲載写真は全て撮影時のみ、マスクを外して撮影を実施しています。

地域医療支援病院について

当院は、「**地域医療支援病院**」です。

「地域医療支援病院」とは、地域の「**かかりつけ医**」から紹介のあった患者さんに対する医療の提供、地域の医療機関と医療機器の共同利用、地域の医療従事者に対するスキルアップ研修の実施など、**地域医療の充実を図る病院のこと**です。
今後も引き続き、地域の皆さまに、より安心・安全な医療を提供できるよう努めていきたいと考えています。

【かかりつけ医とは？】

ご自身の日常的な診療や健康管理をしてくれる地域の医師のことです。



地域医療推進部スタッフ

連携診療を推進しています

当院では、「かかりつけ医」との連携を密にし、それぞれの特徴を活かして診療にあたることで、地域の皆さまがより安心した暮らしができるようにと考えています。普段の診療は「**かかりつけ医**」で、必要な時はいつでも「**かかりつけ医**」からの紹介で当院を受診いただけます。

【「かかりつけ医」をもつメリットは？】

メリット 1

一人の医師に継続的にかかることで、ご自身の**病歴や体質・生活習慣**などをふまえた診療を受けることができます。

メリット 2

当院受診の際に「**かかりつけ医**」から紹介いただくと、スムーズに**検査や診療**を受けていただくことができます。

メリット 3

入院や検査などが必要な場合、**適切な病院・診療科**を紹介できます。

「**かかりつけ医**」からの紹介状をご持参ください

当院受診の際には「**かかりつけ医**」からの紹介状をご持参ください。紹介状がない場合は、通常の診療費の他、初診時・再診時にかかる「**選定療養費**」が必要となります。

「**かかりつけ医**」相談窓口を設けています

・「**かかりつけ医**」を持ちたいがどうすれば良いかわからない。
・自宅近くで「**かかりつけ医**」を探したい。
・通院が大変になってきたので「**かかりつけ医**」に紹介して欲しい。
など、患者さんと「**かかりつけ医**」を繋ぐお手伝いをさせていただきます。

ご相談は、1階④医療相談窓口で承っています。

必要な検査・治療を、迅速・的確・安全に!!

消化器内科

今年の消化器内科は、常勤医師3名と専攻医1名の体制になりました。
常勤医師が減りましたが、検査・治療には支障が無いよう週4日非常勤医師に来ていただいています。常勤医師は3名とも消化器病学会・消化器内視鏡学会の専門医を取得しており、必要な検査・治療を迅速・的確・安全に行えるように日々心掛けています。

主な対象疾患

- 上下部消化管や肝胆膵の腫瘍性疾患
- 胃潰瘍、総胆管結石、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病）等の非腫瘍性疾患。1名が、日本炎症性腸疾患学会の専門医・指導医を取得しています。

診療科の特色

病診連携、救急医療にも力を入れています。

診療実績

標準的な消化管、肝胆膵疾患に対する内視鏡検査・治療はカバーできています。

治療項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
上部消化管内視鏡	3,746	3,681	3,655	4,232
食道・胃粘膜下層剥離術 ESD	39	40	45	37
大腸内視鏡	1,535	1,742	1,677	1,766
大腸ポリープ切除術・EMR	351	450	439	545
大腸粘膜下層剥離術 ESD	18	19	30	23
胆膵内視鏡（検査、治療の合計）	255	264	235	226
上下部・胆膵内視鏡総件数	5,536	5,687	5,567	6,234
経皮的肝生検	12	7	4	10
経皮的ラジオ波焼灼術	6	5	6	9
肝臓に対する血管塞栓術	13	12	14	15



■スタッフ紹介



副院長 兼
消化器内科部長
あらい まさひろ
新井 正弘

消化器病

日本消化器病学会消化器病専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本内科学会認定内科医・指導医
日本内科学会総合内科専門医
日本肝臓学会肝臓専門医

消化器内科
副部長

かとう りゅうすけ
加藤 隆介

消化器病

日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本内科学会総合内科専門医

消化器内科
医員

あささだ こうへい
朝枝 興平

消化器病

日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本炎症性腸疾患学会専門医・指導医
日本内科学会認定内科医



消化器内科
医員
はとり さわこ
羽鳥 左和子

消化器内科

命に関わる循環器疾患に対してハイレベルな専門治療を。

循環器内科

病診連携を重視、普段は原則かかりつけ医に、入院必要時には速やかに紹介していただく形式。高度な集中治療や救急医療に特化。症状のない心不全・治療抵抗性高血圧・慢性腎臓病などの教育入院を含め対応します。

主な対象疾患

- 冠動脈疾患（急性心筋梗塞・不安定狭心症・冠攣縮性狭心症など）
- 心不全（急性心不全・虚血性心不全・心筋症・心筋炎・心臓弁膜症など）
- 不整脈（心室細動・心室頻脈・心房細動・房室ブロック・洞不全症候群など）
- 肺血管・末梢血管（肺高血圧・閉塞性動脈硬化症・足壊疽・腎動脈狭窄症など）

診療科の特色

急性期診療に特化

まず一番に、地域の皆様が急に生命の危機に陥った重大な時にこそ、我々がお役に立ちたいと考えています。約70年の当院の歴史の中で、新病院が完成した平成11年以降は、地域最大の循環器病の救急救命センターの役目を果たしてまいりました。これからもその役目をしっかりと果たすべく、より一層のスタッフや設備の充実を行って、最高の医療が提供できるように努力していく所存です。ただ、どうしても我々の医療資源にも限りがあります。そのため、地域の病院や医院などの医療機関と密に連携して、通院治療は地域の医療機関で、当センターでは主として入院治療を受け持つといった共同診療を提案しています。今後当院での外来診療部門は段階的に縮小していく予定ですので、当センター通院中の患者さんにおかれましても、病状が安定された方につきましては、かかりつけ医として近隣の医療機関で通院医療を受けていただく事のご協力をお願いいたします。尚、かかりつけ医からのご連絡があれば、いつでも当院での医療を受けていただく事を可能とします。

循環器疾患への専門性の高い治療

当センターでは従来の標準的な薬物治療に加え、下記の専門的で高度とされる医療を行います。

1. 心筋梗塞・狭心症といった冠動脈疾患に対する心臓カテーテル治療
2. 足壊疽を含めた閉塞性動脈硬化症・腎動脈狭窄症・肺動脈狭窄症に対するカテーテル治療
3. 不整脈疾患に対するカテーテル治療及びペースメーカー治療
4. 心不全に対する非薬物治療

もちろん、心臓バイパス・大動脈疾患や心臓弁膜症等の外科的手術、さらに再生医療や心臓移植を必要とする病態であれば、当センターでの医療だけでは完結しませんので、大学病院等のより高度な医療機関とも連携を図って、最善の治療法が円滑に実施できる様に努めています。

個別指導による包括的再発予防

我々は予防医学も重要視しています。心臓病の治療は多くの場合、過食や運動不足といった生活習慣の改善が必要です。当センターでは急性心筋梗塞で入院された方の生活習慣改善のために、循環器科医師・かかりつけ医・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・ソーシャルワーカーらが合同カンファレンスを行い、それぞれの専門の立場から十分議論した上で個別に指導を行います。

後遺症のない社会復帰を目指す救命救急

来院時または院外での心肺停止症例に対しては、従来から当センターでは体外循環冷却装置を用いた確実な脳低温療法を実施する事により、後遺症なく社会復帰された症例を多数経験しています。

■スタッフ紹介



循環器内科
部長
とみやす き いちろう
富安 貴一郎
心不全
カテーテル治療

日本循環器学会循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会専門医
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医

循環器内科
副部長

せき ともつぐ
関 知嗣

循環器領域一般



日本内科学会認定内科医
日本循環器学会循環器専門医
日本心血管インターベンション治療学会認定医
日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士



循環器内科
医員
すず き ようすけ
鈴木 陽介
循環器領域一般

日本内科学会認定医
日本心血管インターベンション治療学会認定医

循環器内科
医員

ほり い ゆう き
堀井 裕貴

循環器領域一般



慢性腎臓病は国民病です！

腎臓内科



腎臓病は、軽微な症状で始まり、知らないあいだに進行し、気が付けば透析を受けざるを得ない状態になっていることがよくあります。腎臓病は、膠原病・リウマチ疾患、糖尿病、メタボリックシンドロームなどによく合併し、増加傾向にあります。さらに慢性に進行する慢性腎臓病（CKD：chronic kidney disease）は心血管疾患（脳卒中や心筋梗塞など）を合併する頻度が高いことが知られています。

主な対象疾患

- 検尿異常（蛋白尿や血尿など）
腎臓病を発症している重要なサインの一つに、検尿異常（蛋白尿や血尿など）があります。検尿異常を指摘されましたら、放置せず、当科を受診してください。検尿異常の鑑別診断を行い、必要に応じて積極的に腎生検を実施して確定診断、適切な治療を行っていきます。
- 腎機能低下
急激に腎機能が低下したのか（急性腎不全）、あるいは徐々に腎機能が低下したのか（慢性腎不全）を鑑別、その原因の精査を行い、適切な治療を行います。慢性腎不全の場合、その進行の抑制をめざして教育入院を行います。
- 透析合併症治療
様々な透析合併症に対し治療にあたります。バスキュラーアクセストラブルに対しては、超音波ガイド下シャントPTAやアクセス再建術、修復術を積極的に行っています。また腹膜透析カテーテル合併症に対しても出口部変更術、再建術など治療に当たります。
- ネフローゼ症候群
原因（一次性腎炎や二次性腎炎など）の鑑別診断、腎生検などで確定診断を行い、適切な治療を選択・実施します。当科では副腎皮質ステロイドホルモンによる治療に加え、免疫抑制薬、さらにはLDL-アフェレーシスなどの特殊治療など色々な選択肢の中から最良の治療を選択します。
- 腎代替療法
慢性腎不全に対する保存的治療の限界と判断された場合は、すみやかに腎代替療法への移行を考慮します。具体的には血液透析、腹膜透析、腎移植を選択していただきます（当院では腎移植を行うことができませんので、希望される方がおられれば、他施設へ紹介致します）。
- 電解質異常
ナトリウム、カリウムなどの電解質異常は早期の鑑別診断と治療が必要となります。特に、カルシウム異常は背景に何らかの疾患が存在することが多く、高カルシウム血症の場合は緊急の治療が必要です。

診療科の特色

- 腎臓病の早期診断・治療
当院腎臓内科では、軽度の検尿異常や腎機能障害に対し積極的に腎生検を行い、早期に腎臓病的確な診断をして治療を開始し、腎臓病の進行抑制・寛解導入を目指しております。
- 慢性腎臓病の検査教育入院
保存期の慢性腎不全の患者さんを対象に「慢性腎臓病検査教育入院」を行い、管理栄養士、薬剤師、検査技師、および看護師と共にチーム医療として慢性腎臓病およびその合併症の進行を阻止すべく腎臓病診療にあたらせていただいております。
- 腎代替療法の選択・導入
末期腎不全に陥った場合は、腎代替療法の選択・導入（腹膜透析・血液透析）とその後の管理を行います。当科では、血液透析を選択された場合は内シャント造設術や動脈表在化術などバスキュラーアクセスの作成を、腹膜透析を選択された場合は腹膜透析カテーテルの腹腔内留置術を行っております。また腎センターでは月から土まで25ベッドで血液透析を行っており、地域の基幹病院として、さらには高次機能をもつ総合医療センターとして各科の医師と連携して種々の血液浄化治療も行っております。

■スタッフ紹介



腎センター長 兼
腎臓内科部長
なかに きみひこ
中谷 公彦
腎臓内科・腎不全
膠原病・リウマチ

日本腎臓学会専門医・指導医・評議員
日本透析医学会専門医・指導医
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医
臨床研修医指導医
日本腹膜透析医学会認定医
日本透析医学会VA血管内治療認定医

腎臓内科
副部長

あさ い おさむ
浅井 修

腎臓内科・腎不全



日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医・指導医
日本リウマチ学会専門医
日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医
臨床研修医指導医
日本腹膜透析医学会認定医
日本透析医学会VA血管内治療認定医



腎臓内科
医員
ひら た ともあき
平田 智章
腎臓内科・腎不全

腎臓内科
医員

しんぐう やす き
新宮 靖樹

腎臓内科・腎不全



日本腎臓学会専門医
日本透析学会専門医
日本内科学会内科専門医

（非常勤医員）

さわ い しん じ
澤井 慎二

腎臓内科・腎不全

（非常勤医員）

た な か ひ さ や
田中 寿弥

腎臓内科・腎不全

人生100年時代、糖尿病のない人と変わらない人生を過ごすために。
自分の身体と向き合ってみませんか？

糖尿病・代謝内科

糖尿病は心臓・腎臓・脳血管・眼・神経、更には歯周病や認知症、がんなど全身のありとあらゆる病気に関係しています。血糖値の管理はもちろん、そのような病気の発症・進行を予防するために、それぞれの専門科や職種で連携して診療・支援をしていきます。

■主な対象疾患

- 2型糖尿病
糖尿病のある人の90%以上を占めています。インスリンの分泌が低下することや働きが悪くなることで血糖値が上昇します。原因や背景、併存疾患もそれぞれ違うため、一人ひとりに合わせた治療や支援を行います。食事療法と運動療法が基本ですが、近年様々な薬が開発されており、テーラーメイド（個別化）で治療を行います。
- 1型糖尿病
自己免疫によるインスリンを分泌する細胞（膵β細胞）が破壊されることが原因です。膵臓からインスリンが分泌されなくなるため、比較的急に発症することが多いです。血糖値を安定させるためには、インスリンの自己注射が必要です。1日4回程度のペン型のインスリン自己注射を行っている人が多いですが、自動的にインスリンを注入するインスリンポンプという機械を使用している人もいます。
- 妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠
妊娠糖尿病とは、妊娠中に初めて診断された糖尿病のことを指します。期的な血糖測定や、管理栄養士の指導のもと食事療法を行います。血糖値が高いと母体や胎児・新生児に合併症が起こる可能性があるため必要に応じてインスリン注射を行います。糖尿病のある人が妊娠を計画、もしくは妊娠が分かったタイミングで糖尿病の薬剤治療は全てインスリン注射に切り替える必要があります。
- 肥満症
肥満症とはBMI25kg/m²以上かつ肥満に関連する健康障害がある、もしくは内臓脂肪が蓄積した状態であり、医学的に減量が必要な状態を指します。健康障害には2型糖尿病・高血圧・脂質異常症・痛風などに加え、脳梗塞、心筋梗塞、脂肪肝、睡眠時無呼吸、膝・股関節・脊椎の病気も含まれます。更には、様々な「がん」や血栓、喘息、不妊、精神疾患など関係すると言われています。体重の数%の減量でこれらの健康障害が改善すると言われています。定期的な受診と栄養指導でライフスタイルの見直しを行い、なかなか減量が得られにくい場合に薬剤での治療を検討します。
- 内分泌疾患
ホルモンは脳（視床下部や下垂体）・甲状腺・副甲状腺・副腎・卵巣・精巣など様々な臓器から分泌され、全身の代謝や体調管理を行っています。内分泌疾患はホルモン分泌の異常やそれらの臓器の異常によって生じる疾患です。症状はホルモンにより様々で、治療は薬剤や手術をする場合もあります。
甲状腺の病気（バセドウ病や橋本病）が多く、動悸や体重減少もしくは体重増加や浮腫、気分の落ち込みなどで発症します。内分泌疾患は他の疾患の原因検索で偶然見つかる場合や、がんの化学療法中に副作用として発症する場合もあります。

■診療科の特色

- 令和7年度より糖尿病診療支援チームを発足しました。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士など多職種で構成され、糖尿病診療の充実、啓発活動に邁進しています。
- 糖尿病のある方を対象に糖尿病教育入院を行っています。食事・運動療法に加え合併症などの検査や薬剤調整を行います。近隣の医療機関様からの紹介も増えています。
- 令和7年度より肥満症治療外来を開設しました。肥満に伴う健康障害を有する方を対象に検査と栄養指導を定期的に行い、必要に応じて薬剤導入を行います。当院は肥満症治療薬を保険診療で処方できる数少ない医療機関の一つです。
- 内分泌疾患の負荷試験なども外来・入院で積極的に行っています。

■スタッフ紹介



糖尿病・代謝内科
医長
よしむら たかし
吉村 尚

糖尿病・内分泌

日本糖尿病学会専門医・研修指導医
日本内分泌代謝・糖尿病領域暫定指導医
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
臨床研修指導医

糖尿病・代謝内科
医員

とみなが ひろゆき
富永 洋之



糖尿病・内分泌

日本糖尿病学会専門医・研修指導医
日本内分泌代謝・糖尿病領域専門医・指導医
日本病態栄養学会病態栄養専門医
日本内科学会専門医・総合内科専門医

糖尿病・代謝内科
医員

かわい ざやか
河合 清佳

糖尿病・内分泌

日本糖尿病学会専門医
日本内分泌代謝・糖尿病領域専門医
日本内科学会専門医



糖尿病・代謝内科
医員
ひらまつ さちよ
平松 幸代

糖尿病・内分泌

日本内科学会専門医

京都府南部のリウマチ・膠原病疾患の中核病院として
地域に密着した診療を行います。

リウマチ科

専門科を持つ病院が限られているリウマチ・膠原病疾患を専門医が各科、大学病院などとの連携を図りながら専門的な医療を行います。

■主な対象疾患

- 関節リウマチ
- 悪性関節リウマチ
- リウマチ性多発筋痛症
- 全身性エリテマトーデス
- シェーグレン症候群
- 全身性強皮症
- 皮膚筋炎・多発性筋炎
- 免疫介在性壊死性ミオパシー
- 混合性結合組織病
- 成人発症スティル病
- ベーチェット病
- 血管炎（ANCA関連血管炎、大動脈炎症候群、巨細胞性動脈炎など）などのリウマチ性疾患
- 膠原病
- 自己免疫疾患

■診療科の特色

リウマチ・膠原病分野は希少疾患や難病指定を受けている疾患も多数あり、専門施設が少なく通院先に困っておられる患者さんが多く、また、生物学的製剤、JAK阻害剤、免疫抑制剤など様々な治療の選択肢が増えている分野です。
当院では京都府南部の中核病院としてリウマチ学会認定専門医による専門的かつ地域に密着した医療を目指しています。

■診療実績

- 令和5年度 リウマチ性疾患：約500名 膠原病疾患：約150名
- 令和6年度 リウマチ性疾患：約550名 膠原病疾患：約170名



関節エコー検査



点滴の生物学的製剤投与を受けていただく外来化学療法室です

各診療ガイドラインに則した
最新の呼吸器診療を心がけています。

呼吸器内科

地域医療の充実を目指して。

主な対象疾患

- 気管支喘息
- 咳喘息
- 慢性閉塞性肺疾患（COPD）
- 睡眠時無呼吸症候群
- 気管支拡張症
- アレルギー性気管支肺アスペルギルス症
- 過敏性肺臓炎
- 間質性肺炎
- 原発性肺癌
- 呼吸器感染症

診療科の特色

気管支喘息やCOPDの患者さんの吸入治療を中心に、睡眠時無呼吸症候群のCPAP（持続的気道陽圧）治療や特発性肺線維症の薬物治療など一般呼吸器診療を実施しております。

最近では肺非結核性抗酸菌などの慢性気道感染症の方が増加しており、治療を担当しております。気管支鏡検査による診断も実施しております。

診療実績

- 週3回（月・水・木）午前外来

非常勤医師による外来診療のみの対応となります。
専門的な治療が必要な入院患者さんは他院をご紹介させていただくことがありますので、ご了承下さい。

スタッフ紹介

（非常勤医員）

やま だ ただあき
山田 忠明

呼吸器診療全般

（非常勤医員）

いし だ まさき
石田 真樹

呼吸器診療全般

（非常勤医員）

くにまつ ゆうすけ
國松 勇介

呼吸器診療全般

内科疾患全般を幅広く診察しております。

総合内科

お困りのことがあればご相談ください。

主な対象疾患

- 一般内科疾患
肺炎、尿路感染症、胃腸炎、蜂窩織炎などを診断し治療を行います。
- 不明熱
通常の検査では原因のはっきりしない発熱患者さんを診察します。
- 高齢者
誤嚥性肺炎などの疾患に加えて、脱水症・食欲不振・せん妄など頻繁にみられる症状に対応し、治療に当たります。

診療科の特色

総合内科は臓器にとらわれず全般的な診断・治療を行います。

内科疾患全般が含まれますが、特に以下のようなときにご相談いただければ幸いです。

- 病態が複雑で、診断に困る場合の鑑別診断
- 発熱などの急性疾患の初期対応
- 高齢で入退院を繰り返しており、体力が落ちて自宅での療養が困難となり退院調整を必要とする場合

診断・治療にあたっては各専門診療科とも連携し、また、より高度な医療が必要であると判断した場合は高次病院への紹介を行います。病気だけでなく、人を診る医療を心がけていきますので、よろしくお願いいたします。

スタッフ紹介



総合内科
副部長
しみず わく
清水 和久

日本内科学会内科専門医

総合内科
医員

その まれん
園 真廉

日本内科学会総合内科専門医



小児科医は「こどもの総合医」です。何でもご相談ください。

小児科

京都府南部の中核病院小児科として近隣機関と連携し、新生児から思春期まで、地域の子どもの成長発達とそ

主な対象疾患

- 感染症
呼吸器・消化管感染症、尿路感染症、中枢神経感染症など
- 神経・発達
てんかんなどの発作性疾患、頭痛、先天異常症候群、発達遅滞、重症心身障害児、医療的ケア児など
- 血液・免疫
貧血、血小板減少症、免疫不全、リウマチ性疾患、膠原病など
- アレルギー
食物アレルギー、気管支喘息など
- 循環器
先天性心疾患、川崎病、不整脈など
- 腎臓
ネフローゼ、慢性腎炎、尿路感染症、腎尿路奇形など
- 新生児
早産児（在胎34週以上）、低出生体重児（1500g以上）、新生児呼吸障害、新生児黄疸など
- 内分泌・代謝
低身長、思春期早発症、先天代謝異常症、糖尿病、肥満など
- 心身症
起立性調節障害、過敏性腸症候群、頭痛など

診療科の特色

- 外来診療
午前的一般外来では、十分な感染対策のもと、発熱・咳嗽・下痢嘔吐、などを主訴とする急性感染症の診療にあたるほか、種々の慢性疾患に対しての初期診療も行います。午後の専門外来（予約制）では、アレルギー（月・木）／血液（火）／循環器（火）／神経（水・木）／内分泌・代謝（木・金）、の幅広い領域をカバーしています。また、基礎疾患を有する小児に対する専門的予防接種（火）、公認心理師と連携した心身症の診察・カウンセリング（月）も行っています。一部市町村からの紹介を受けたケースについてののみとなりますが、発達に課題のある就学前児の相談も行っています。
- 救急診療
日曜祝日および木曜夜間は、山城南医療圏の輪番担当として小児科医が救急対応しています。その他の平日時間外についても、近隣診療所から入院を要するお子さんの紹介があれば受け入れています。
- 入院診療
外来や救急からの紹介患者さん、また院内出生のうち早産の赤ちゃんなどを含め、年間入院件数は400～500件ほどです。遠方の高次専門医療機関で治療されたお子さんの自宅退院前の回復期転院先としても対応しています。また、食物アレルギー負荷試験（主に日帰り）や低身長に対する成長ホルモン分泌刺激負荷試験（2～3泊）、鎮静剤使用下でのMRI撮像（日帰り～1泊）、等、検査目的の短期入院も行っています。

診療実績

- 年間入院件数：約400～500件

スタッフ紹介



小児科
副部長

ふじ き あつし
藤木 敦

血液・アレルギー
小児科全般

日本小児科学会専門医・指導医
日本血液学会専門医・指導医



小児科
医長

ちはら たかよ
千原 貴世

アレルギー・発達障害
小児科全般

日本小児科学会専門医
日本アレルギー学会専門医



小児科
医長

たうら よしひろ
田浦 喜裕

神経・発達
小児科全般

日本小児科学会専門医・指導医
日本小児神経学会専門医
日本小児感染症学会認定医



小児科
医員

の ぎ もり ともかず
野木森 智和

小児科全般



小児科
医員

さ か い りょう
阪井 諒

小児科全般

（非常勤医員）

ないとう たけし
内藤 岳史

小児神経・発達

（非常勤医員）

すぎもと さとる
杉本 哲

小児内分泌・代謝

（非常勤医員）

きた ゆうすけ
喜多 優介

小児循環器

（非常勤医員）

ちよう ちはる
長 千春

小児内分泌・代謝

（非常勤医員）

たきがみ えり か
滝上 絵里香

腎疾患

京都南部地域で頼られる泌尿器科を目指して
日夜励んでおります。

泌尿器科

大学病院と連携し、最新、最適な医療を提供します。

主な対象疾患

- 癌
腎臓・膀胱・前立腺・精巣
- 尿路結石
腎臓・尿管・膀胱
- 炎症性疾患
- 前立腺肥大症、過活動など排尿障害 など

診療科の特色

当院の泌尿器科は主に泌尿器外科を行い、内科的腎疾患や透析に関しては腎臓内科が担当しています。

扱う臓器は、腎・尿管・膀胱・尿道といった尿路臓器、精巣・前立腺などの男性性器、副腎などの内分泌臓器があり、疾患としては、癌・結石・炎症疾患などがあげられます。現在、日本泌尿器科学会教育基幹施設に認定されており、専門医の育成も行っています。

また、治療は本邦や欧米の泌尿器科学会のガイドラインに則り、最新かつ標準治療を提案するようにしています。京都府立医科大学泌尿器科とも密に連絡を取り、多くの泌尿器科医の意見を取り入れながら治療方針を決定しています。

癌に関しては開腹手術による腎摘除術、膀胱全摘除術、前立腺全摘除術はもとより、低侵襲治療として膀胱癌に対する内視鏡手術や抗がん剤治療、動注化学療法、さらに腎癌や腎盂尿管癌に対する腹腔鏡手術、分子標的治療、抗がん剤治療も行っています。また最近の治療のトレンドでもあるロボット支援手術や癌の局所療法も、希望される場合は京都府立医科大学と連携を取り、治療を行えるよう斡旋しています。前立腺癌に対する内分泌療法や抗癌剤治療も行っています。

結石に対しての治療は体外衝撃波結石破碎術だけでなく、経尿道的尿路結石摘除術（TUL、f-TUL）も行っており、さらに前立腺肥大症や排尿機能障害に対しての内服治療や内視鏡治療のように、低侵襲治療も患者さんと相談しながら積極的に行っています。



排尿自立支援チーム



スタッフ紹介



泌尿器科
部長

まつばら ひろき
松原 弘樹

日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本癌治療認定医機構がん治療認定医
泌尿器腹腔鏡技術認定医



泌尿器科
医長

かとう みねゆき
加藤 峰之

日本泌尿器科学会専門医・指導医

血液疾患全般に対応します。

血液内科

主な対象疾患

- 各種の貧血：溶血性貧血、巨赤芽球性貧血など
- 凝固異常、血小板減少症：特発性／免疫性血小板減少性紫斑病など
- 造血器悪性腫瘍：白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄増殖性疾患など

診療科の特色

血液疾患はあまり馴染みがなく専門性の高いイメージですが、近年高齢化に伴い増加傾向で治療法も著しく進歩しています。当院では専門医が対応しますので、血液疾患が疑われる際にはお気軽にご紹介下さい。入院治療が必要な患者さんは京都府立医科大学附属病院、京都第一赤十字病院、京都第二赤十字病院など近隣の高度医療機関と連携し診療にあたります。



■スタッフ紹介

(非常勤医員)
みずたに しんすけ
水谷 信介

血液内科全般

日本内科学会認定総合内科専門医
日本血液学会認定血液専門医・指導医
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医
日本造血・免疫細胞療法学会認定造血細胞移植認定医
日本輸血・細胞治療学会認定医
日本血栓止血学会認定医
日本専門医機構認定臨床検査専門医・指導医

超急性期脳梗塞から認知症まで、
地域の脳神経疾患に幅広く対応します

脳神経内科

主な対象疾患

- 脳梗塞
脳卒中の一つで、手足の麻痺、呂律が回らない、顔のゆがみなどの症状が突然出現します。発症早期に受診することで、条件が整えばrt-PA静注療法などの治療が行える場合があります。早期に治療とリハビリテーションを開始することで、後遺症の軽減が期待できます。
- パーキンソン病
動作が遅くなる、手足が震える、歩きにくくなるなどの症状が徐々に進行する病気です。
- 認知症
記憶力や判断力などの認知機能が低下し、日常生活に支障をきたす病気です。アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体病などがあり、アルツハイマー病による軽度認知障害および軽度認知症では、適応を慎重に判断したうえでAβ抗体薬治療を行っています。
- てんかん
突然意識を失う、手足がけいれんするなどの症状が繰り返し起こる病気で、適切な治療により再発予防が期待できます。
- 頭痛
片頭痛、群発頭痛、緊張型頭痛、薬物使用過多による頭痛などがあり、正確な診断に基づいて治療を行います。

診療科の特色

脳神経内科は、脳・脊髄などの中枢神経、末梢神経、筋肉に関連する幅広い病気を診療します。パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの神経難病だけでなく、頭痛、しびれ、めまいなど、日常的によくみられる症状にも対応しています。

超高齢社会を迎え、急性疾患では脳梗塞、慢性疾患では認知症の診療ニーズが高まっています。当科では、一次脳卒中センターとして、超急性期脳梗塞に対するrt-PA静注療法を含む迅速な対応に努めています。また、認知症疾患医療センターとして、アルツハイマー病をはじめとする認知症の早期診断・早期治療に取り組み、適応を慎重に判断したうえでAβ抗体薬治療も行っています。問診と神経診察を重視し、一人ひとりの症状や生活背景に応じた丁寧な診療を心がけています。

Aβ抗体薬治療（抗アミロイドβ抗体薬）

アルツハイマー病による軽度認知障害および軽度認知症に対して、適切な診断のうえで治療を行っています。治療の適応は慎重に判断し、投与中もMRIなどで安全性を確認しながら進めます。認知症の早期診断と新たな治療をご希望の方はご相談ください。

rt-PA静注療法

発症間もない超急性期脳梗塞に対して、詰まった血栓を溶かし、脳血流の再開を目指す点滴治療です。当院では、救急搬送された脳梗塞患者さんに対して、rt-PA静注療法を含む迅速な診断・治療体制のもとで対応しています。手足の麻痺、言葉のもつれ、顔のゆがみなどの症状が突然出現した場合は、できるだけ早く受診することが重要です。

■スタッフ紹介

脳神経内科
部長
おおしま よういち
大島 洋一
神経疾患全般
認知症

日本神経学会神経内科専門医・指導医
日本内科学会認定医／総合内科専門医
日本脳卒中学会脳卒中専門医
日本認知症学会認定専門医・指導医

脳神経内科
医員
うえだ てつひろ
上田 哲大
神経疾患全般

日本神経学会神経内科専門医
日本内科学会認定医／総合内科専門医

脳神経内科
医員
なえしろ ゆうき
苗代 悠暉
神経疾患全般

老健やましろ施設長兼
院長特別補佐
いわもと かずひで
岩本 一秀
神経疾患全般
認知症

日本神経学会神経内科専門医・指導医
日本内科学会認定医／総合内科専門医
日本脳卒中学会脳卒中専門医
日本臨床神経生理学会指定認定医
日本医師会産業医

(非常勤医員)
こいずみ ひでたか
小泉 英貴
神経疾患全般

(非常勤医員)
たま い ふみ や
玉井 郁也
神経疾患全般

肺癌、転移性肺腫瘍、気胸などの呼吸器領域の外科治療を行っています。
的確な術前診断を行い、低侵襲で安全かつ確実な手術を行います。

呼吸器外科

不安なこと、聞きたいことがありましたら、納得いくまで説明いたします。

主な対象疾患

- 肺癌
肺癌の手術治療、手術後の補助化学療法
- 気胸
自然気胸に対する手術治療
- 縦郭腫瘍
胸腺腫、胸腺癌、神経鞘腫、奇形腫などの手術治療
- 転移性肺腫瘍
大腸癌・直腸癌、腎癌などの肺転移に対する手術治療

診療科の特色

当院での呼吸器外科手術の特徴は、微小な肺腫瘍に対する術前マーキングを併用した胸腔鏡手術です。近年、胸部CTの普及により、胸部レントゲンでは指摘できないような小さな影が見つかるようになりました。小さい陰影は、従来の検査法（気管支鏡、針生検など）では確定診断を得られないことが多いです。しかしながら、悪性を疑う陰影を経過観察し、大きくなってから手術していたのでは、小さく見つかったメリットがありません。小さく見つけて小さく手術することで、早期に肺癌を治療できると考えています。

手術前にCTで確認しながら、細い針を刺して目的の陰影の近くまで進めます。微量の造影剤を注入してマーキングとします。手術中に、レントゲンを利用してマーキングを確認し、微小腫瘍を含むようにして切除します。肺癌・転移性肺腫瘍・気胸などの呼吸器外科の手術は、ほぼ全症例で内視鏡手術を行っています。2 cm程度の小さな傷を2カ所、わきの下に4～8 cm程度の傷を1カ所の合計3カ所の傷で手術を行っています。

気胸の手術では、さらに低侵襲な1カ所の創で行う手術をはじめています。手術後の痛みはさらに軽減しています。



スタッフ紹介



呼吸器外科
部長
いとう かずひろ
伊藤 和弘

日本外科学会専門医・指導医
日本呼吸器外科学会専門医
日本胸部外科学会認定医

(非常勤医員)

にしむら とも き
西村 友樹



レントゲン透視でマーキングを確認して鉗子で把持した所です

消化器癌に対する外科治療を中心としたトータルケア

消化器外科

私たちは、地域の方々のため、消化器癌をはじめとする様々な消化器疾患に対する外科治療を支えます。

主な対象疾患

- 消化器癌
胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌、胆道癌など
- 良性疾患
胆石症、鼠経ヘルニアなど
- 急性疾患
急性腹症（急性虫垂炎 腸閉塞、急性胆嚢炎など）

診療科の特色

当院は地域がん診療病院としての役割を担い、消化器癌に対して消化器内科、放射線科と連携し、的確な診断、そして適切かつ標準的な外科治療を提供しています。また地域の癌治療を支えるために、糖尿病や心臓病などさまざまな病気を伴ったがん患者さんも癌治療ができるようにさまざまな診療科とも連携し、トータルケアを提供しております。

手術治療は、丁寧で精度の高い腹腔鏡下手術を提供し、その技術を生かしたより良い治療ができるように研鑽に努めています。

手術治療だけでなく、専門的な化学療法（抗がん剤治療）も提供しています。

更に私たちは、緩和ケアにも精通し、多くにメディカルスタッフとともにチームを作りあげ、切れ目のないがんのトータルケアを心掛けております。

診療実績

治療項目	手術数				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
胃	19 (12)	15 (7)	21 (9)	27 (12)	24 (8)
結腸・直腸	60 (56)	51 (45)	69 (53)	72 (41)	87 (68)
肝	2	9 (2)	11 (6)	12 (6)	15 (8)
膵	2	7	10	6	5
胆石	39 (38)	54 (52)	47 (40)	59 (51)	51 (49)
ヘルニア	63 (45)	112 (87)	108 (70)	99 (53)	108 (68)
虫垂炎	22 (22)	35 (35)	32 (26)	44 (42)	41 (37)
消化器外科全体	249	328	377	357	373
乳腺外科	51	48	46	59	53
小児外科	37	64	55	40	27
全体	339	457	498	456	450
臨時手術	59	82	93	111	60

() …腹腔鏡下手術数

スタッフ紹介



院長
やまぐち あきひろ
山口 明浩

消化器外科

京都府立医科大学臨床教授
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本緩和医療学会認定医
日本救急医学会専門医
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医
日本肝胆膵外科学会評議員
京都府医師会医療安全対策委員会委員長
山城南災害コーディネーター

外科
副部長

かしもと きん こ
柏本 錦吾

消化器外科



日本消化器外科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本外科学会専門医・指導医
日本内視鏡外科学会技術認定医
腹部救急外科認定医
日本ヘルニア学会鼠径部ヘルニア修得医
近畿外科学会評議員



消化器外科
副部長
はら だ きょういち
原田 恭一

消化器外科

日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
近畿外科学会評議員

消化器外科
医員

たまい みず き
玉井 瑞希

消化器外科



日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

確かな診断・適切な治療を目指しています。

乳腺外科

心地よく受診していただけるよう、「明るい診察室」を心がけております。

主な対象疾患

- 乳腺疾患
乳癌、その他の乳腺疾患

診療科の特色

- 乳腺の診療では、日本乳癌学会の標準治療ガイドライン（科学的根拠に基づいた現時点での最善の治療）の実践を目指します。
- 現在、完全予約診療となっております。
- 女性医師・女性技師による診療を選択していただけます。

診療実績

治療項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
乳癌手術	46	45	41	49	47
良性腫瘍手術	8	5	6	6	7
その他手術	4	1	0	3	4

■ スタッフ紹介



乳腺外科
部長

まつだ たかゆき
松田 高幸

乳腺外科

日本乳癌学会認定医・専門医・指導医
日本外科学会専門医
日本麻酔科学会認定医
日本医師会認定産業医
近畿外科学会評議員
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
検診マンモグラフィ読影認定医（A評価）
乳がん検診超音波実施・判定医
JOHBOCセミナー修了
リンパ浮腫研修修了
同志社大学生命医科学部嘱託講師
京都府立医科大学臨床教授

乳腺外科
医員

にしむら まりあ
西村 真里愛

乳腺外科

日本外科学会専門医
検診マンモグラフィ読影認定医
乳がん検診超音波実施・判定医
JOHBOCセミナー修了
リンパ浮腫研修修了
日本乳がん学会認定医・専門医

地域に密着した小児外科医療の提供を目指しています。
親御さんに寄り添って、お子様の治療を行います。

小児外科

小児の外科疾患全般に対応しています。
お子さんの安全を第一に、親御さんにも負担をかけない医療を心がけています。
お子さんの便秘について気軽にご相談ください。

主な対象疾患

- 臍ヘルニア
- 鼠径ヘルニア
- 陰嚢水腫
- 停留精巣
- 移動性精巣
- 包茎
- 正中頸嚢胞
- 漏斗胸
- 虫垂炎
- 腸重積
- Meckel憩室
- 外傷
- 便秘

診療科の特色

新生児（生後30日以内）から中学生3年生（15歳）までの小児を対象とし、脳神経外科領域・心臓血管外科領域・整形外科領域を除く外科的疾患に対して治療する診療科です。

小児の手術を要する患者さん、里帰り分娩など遠方で治療後の患者さんや大都市圏の医療機関通院中の患者さんについても、気軽にご相談ください。

小児外科特有の疾患や重症心身症の患者さんの中には成人期以降も治療・管理を必要とされる方々も多く、小児期以降も引き続き診療を行っています。

代表的な疾患である鼠径ヘルニアや停留精巣、臍ヘルニアなどの手術については1泊2日入院で手術を提供しています。治療費についても乳児医療など公費助成があります。

小児外科疾患は稀な疾患が多く、希少疾患については京都府立医科大学小児外科教室と連携して検査・治療を行います。救急疾患・新生児疾患に対しても積極的に対応いたします。

美容面と低侵襲診療実績

整容面と低侵襲にこだわった手術。
なかなか良くならない頑固な便秘に対する排便コントロール。

小児外科専門医を常勤医とする病院は少なく、山城南地区唯一の希少な診療科です。子育て世代が増加している地区であり、手術件数も増加しています。大病院と同等の治療を提供しています。

診療実績

治療項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
手術症例	39	59	61	52	32
鼠径ヘルニア／陰嚢水腫	15	23	21	19	8
精巣固定術	11	17	19	6	12
臍ヘルニア	1	6	6	4	2
急性虫垂炎	5	2	8	6	8

■ スタッフ紹介



小児外科
医長

ふくなが けんじ
福永 健治

直腸肛門奇形
排便管理

外科専門医
小児外科専門医
小児慢性特定疾病指定医
日本DMAT隊員

整形外科として広く認められる標準的な治療を心がけています。
手術療法および保存療法について患者さんの意志を尊重し決定します。

整形外科

若年者から高齢者まで幅広い整形外科疾患に対応します。手術に関しては、専門分野にしている脊椎脊髄外科疾患をはじめ、手術の低侵襲化に取り組んでおり、入院期間の短縮・早期社会復帰を目指しております。

主な対象疾患

- 骨折：骨折の部位や転位の程度によって治療法を選択します。
- 頰椎症性脊髄症：加齢による頰椎の変性や変形によって脊柱管が狭くなることで脊髄が圧迫を受けます。しびれなどの知覚障害や、字が書きにくい、箸が持てない、歩きづらいなどの運動障害を生じます。
- 腰部脊椎管狭窄症：下肢の痛みによる歩行障害、場合によっては残尿・尿漏れなどの排尿障害を生じることがあります。
- 骨粗鬆症：骨密度の低下によって脊椎圧迫骨折を生じ、寝たきりになる場合があります。
- 変形性膝関節症：関節軟骨の変性によって歩行時の関節痛を生じます。
- 肩関節周囲炎：肩関節の痛みと可動域制限を認めます。

診療科の特色

整形外科では骨、関節、筋肉、神経など運動器と呼ばれる臓器を対象としています。具体的には、四肢や脊椎外傷、慢性的な痛みや変形、運動機能障害などを診療しています。手術は、高齢者の大腿骨骨折や交通・労災事故による四肢骨折に対する骨接合術、脊椎手術、人工関節手術を行っています。術後はスムーズにリハビリテーションを開始できるように、術前よりリハビリ療法士が介入します。カンファレンスを通して医療スタッフと問題点を共有し、チームとして機能障害の改善を目標に努力しています。

診療実績（常勤3人体制以降）

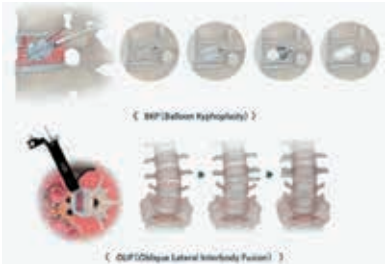
治療項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
骨折	117	144	166	146	141	157	179	189	126
脊椎	57	54	60	66	62	85	83	60	67
人工関節	18	17	16	8	12	12	21	24	21
その他	78	79	95	84	54	82	71	66	64
総件数	270	294	337	304	269	336	354	339	278



▲顕微鏡下手術



▲脊椎ナビゲーションシステム



スタッフ紹介

整形外科
副部長

みずの けんたろう
水野 健太郎

整形外科一般
脊椎脊髄疾患



日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医・
専門医
医学博士

（非常勤医員）

きだ よしかず
木田 圭重

スポーツ整形外来

（非常勤医員）

すけなり つよし
祐成 毅

スポーツ整形外来

（非常勤医員）

いちはし りょう
市橋 諒

（非常勤医員）

あわづ としき
粟津 敏貴

（非常勤医員）

こばやし ゆみこ
小林 裕美子

「的確な治療を、迅速に」をモットーに診療を行っています。

脳神経外科

京都府立医科大学附属病院脳神経外科教室ならびに当院脳神経内科と連携を行い、当医療圏唯一の脳神経外科として、質の高い医療を提供することを目指しています。

主な対象疾患

- 脳腫瘍：神経膠腫、髄膜種、聴神経鞘腫、悪性リンパ腫など
- 脳血管障害：くも膜下出血、未破裂脳動脈瘤、脳出血、脳梗塞、頸動脈狭窄症など
- 頭部外傷：硬膜外血腫、硬膜下血腫、脳挫傷、頭蓋骨骨折など
- 機能的疾患：正常圧水頭症、三叉神経痛、顔面けいれんなど
- 感染症：脳膿瘍、硬膜下膿瘍など

診療科の特色

外科的治療（顕微鏡手術、神経内視鏡手術）や血管内治療が必要となる脳卒中等の緊急疾患にも対応しております。
治療については患者さん・ご家族へ、十分に説明及び相談をさせていただいた上で方針を決定しています。
大型脳動脈瘤に対するフローダイバーター治療にも取り組んでいます。また、超急性期脳梗塞に対する血栓回収療法では、完全再開通／微小な分枝欠損のみにあたるTICI3/TICI2cが82.4％（令和7年度）と高水準の診療実績を残しています。
膠芽腫への交流電場腫瘍治療（オプチューン®）など新しい治療も積極的に取り入れております。

日本脳神経外科学会データベース研究事業（JND）への参加について

当院は、「日本脳神経外科学会データベース研究事業（Japan Neurosurgical Database：JND）」に協力しています。2018（平成30）年1月から当科に入院された患者さんの臨床データを解析させていただき、脳神経外科医療の質の評価に役立てることを目的としています。
解析のため提供するデータは、提供前に個人を特定できない形に加工した上で提供しますので、患者さん個人のプライバシーは完全に保護されます。
上記JNDにご自身のデータが使用されることを希望されない方は、総合受付にその旨をお申し出くださいますようお願いいたします。
その他、JNDについての資料の閲覧を希望される方は、日本脳神経外科学会ホームページ（<https://jns-official.jp>）をご参照ください。

スタッフ紹介



脳神経外科
副部長

おがわ たかひろ
小川 隆弘

脳神経外科全般

医学博士
日本脳神経外科学会専門医・指導医
日本脳神経血管内治療学会専門医
日本神経内視鏡学会認定医
日本脳卒中学会専門医

脳神経外科
医員

ひさおか さとし
久岡 聡史

脳神経外科全般

日本脳神経外科学会専門医

（非常勤医員）

まるやま だいすけ
丸山 大輔

脳神経外科一般

京都府立医科大学脳神経外科講師

（非常勤医員）

ことう ゆうだい
後藤 雄大

脳神経外科一般
頭痛専門外来

救急から手術、集中治療といった急性期医療全般に携わっています。

麻酔科

■主な対象疾患

- 救急・外科手術・集中治療を必要とする疾患全般

■診療科の特色

救急では、迅速な診断、的確な初期治療を行います。

手術では、患者さんが受ける手術の影響を最小限にすべく、厳格な術前・術中管理を手術室スタッフとともにを行います。

集中治療では、侵襲的治療を安全に行います。

救急から手術、集中治療といった急性期医療が安全に行われるように医療の質の向上に日々努めています。

■診療実績

- 2025年度 麻酔科管理手術症例数：859例



■スタッフ紹介



診療部長
麻酔科部長
まつもと やすのり
松本 裕則

日本麻酔科学会指導医
日本専門医機構麻酔科専門医
日本ペインクリニック学会専門医
日本医療安全推進学会認定医療安全高度専門家
日本医療安全学会認定高度医療安全推進者
日本スポーツ協会認定スポーツドクター
インфекションコントロールドクター
京都府立医科大学臨床教授

救急部長
麻酔科副部長

ひらやま たかひろ
平山 敬浩



日本救急医学会専門医
日本集中治療医学会専門医
日本離床学会認定指導医
ICLSディレクター
JTECインストラクター
JPTECインストラクター
ISLSインストラクター
インфекションコントロールドクター



麻酔科
副部長
まえだ さちこ
前田 祥子

日本麻酔科学会指導医
日本専門医機構麻酔科専門医

麻酔科
医員

たかい あきこ
高井 明子

日本専門医機構麻酔科専門医

(非常勤医員)

しもさと こうしゅん
下里 豪俊

日本専門医機構麻酔科専門医

治療方針の決定に結びつく、
質の高い画像診断を心がけています。

放射線科

最先端の画像診断装置を用いて、最高の画像を提供します。
からだに負担がかからない、優しい検査を心がけています。

■診療科の特色

- 3名の常勤医（うち2名が専門医）による質の高い診断と治療を行っています。
- マルチスライスCTを用いて、3次元画像を作成することにより、精密な診断を行っています。心臓CTに関しては、全国的に見ても豊富な経験と症例数を有しています。
- 1.5テスラMRIは、全身の精密な検査が可能です。撮影時の機械音が静かで、快適に検査が受けられます。
- 地域の医療機関からの紹介で、CTやMRIなどの検査を行っています。
- IVRの分野では、他科に入院中の患者さんの癌に対する動注治療、CVポートの挿入、膿瘍ドレナージ、CTガイド下生検などを行っています。



■スタッフ紹介



副院長 兼
放射線科部長
いしはら きよし
石原 潔

画像診断

日本医学放射線学会放射線診断専門医

放射線科
副部長

いとう たかあき
伊藤 誠明



IVR画像診断

日本医学放射線学会放射線診断専門医
日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医



放射線科
医員
とやま やすちよ
戸山 保千代

日本医学放射線学会放射線診断専門医

地域に密着した産婦人科として
女性のQOL向上のために治療を行っています。

産婦人科

当院は京都府内で地域周産期センターに指定されており、総合病院の良さを生かして妊婦さんの安心、安全な分娩ができるよう努めています。思春期から更年期、老年期までの女性に対応し、薬物療法や手術療法などその方にとって最適な治療を選択していきます。

主な対象疾患

- 周産期
正常妊娠・分娩、双胎、切迫流産や妊娠高血圧症など合併症妊娠など
- 腫瘍
子宮筋腫、子宮内膜症、子宮内膜ポリープ、卵巣のう腫などの良性腫瘍や悪性腫瘍の診断、薬物療法、手術
- 女性ヘルスケア
月経異常、更年期障害、骨盤臓器脱、不妊相談
- その他
子宮がん検診（二次検診）、HPVワクチン相談・接種、性感染症など

診療科の特色

妊娠中から分娩、産後まで医師、助産師、看護師の共同管理により安全で安心感のある良質な医療の提供を心がけています。帝王切開術での分娩時にも小児科医、麻酔科医との連携を取りながら十分な管理体制を維持しています。婦人科疾患については薬物療法、手術療法などその方にとって最適な治療法を選択するように心がけています。手術に関しても内視鏡手術（腹腔鏡・子宮鏡）、開腹手術、腔式手術を検討し、より低侵襲な手術を行っています。また病気を未然に防ぎ、女性の健康増進を目指したいという思いから、婦人科がん検診も積極的に行い、思春期から更年期、老年期の女性のヘルスケアにも力を入れています。

- 産科
妊婦健診の中で4Dエコーを無料で行っています。
産科スタッフと協働して妊産婦の心身のケアに努めています。
- 婦人科
内視鏡手術については京都府立医科大学産婦人科より専門性の高い医師を招聘しており大学と同レベルの手術が可能です。腹腔鏡手術については4Kシステムを導入しより鮮明な画像で手術を行っています。また子宮鏡手術についてもレゼクトスコープや細径子宮鏡を導入し治療、診断の幅が広がっています。



■ スタッフ紹介



産婦人科
部長
きたおか ゆい
北岡 由衣

日本専門医機構認定産婦人科専門医
日本産婦人科学会指導医
日本女性医学会女性ヘルスケア専門医・指導医
母体保護法指定医師
オフィス子宮鏡手術認定医
日本産科婦人科遺伝診療学会認定（周産期）
京都府立医科大学臨床教授



産婦人科
医員
いとう はるか
伊藤 悠香

産婦人科一般



産婦人科
医員
まつおか かな
松岡 佳奈

産婦人科一般



産婦人科
医員
さわだ しげなり
澤田 重成

周産期
腔式手術

日本専門医機構認定産婦人科専門医
母体保護法指定医師

（非常勤医員）

くすき いずみ
楠木 泉

内視鏡手術

京都府立医科大学大学院
保健看護学研究科教授

眼科疾患を確実に診断し、
安全に治療を行うことを目指しています。

眼科

白内障、緑内障、網膜疾患、眼瞼疾患などの眼科疾患について、診断治療を行っています。

主な対象疾患

- 眼瞼疾患（眼瞼下垂や内反症など）
- 前眼部疾患（結膜炎、角膜炎など）
- 白内障
- 緑内障
- 網膜疾患（糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、黄斑変性など）
- 小児眼科疾患（斜視、弱視など）

一般眼科疾患の診断、治療を行っています。
手術治療については白内障手術が最も多く、基本的に無縫合小切開手術を施行しています。また眼瞼手術などの手術も行っており、網膜硝子体手術については、京都府立医大などの専門外来に紹介し、連携して治療を行っています。
また抗VEGF抗体硝子体注射、トリウムシノロンのテノン嚢下注射などの処置、レーザー治療なども行っています。

診療科の特色

眼科では診断、治療を行うために、様々な精密機器を使用しています。
検査機器としては、OCT（眼底三次元解析装置）、IOLマスター（光学的眼軸長測定装置）、超音波Aモード・Bモード測定装置、眼底カメラ、皮膚電極ERG、スぺキュラーマイクロスコープ、角膜形状解析装置、オートレフラクトメーター、ノンコンタクトトノメーター、Hess複像検査、ハンフリー自動視野計、ゴールドマン視野計など。
治療機器としてはYAGレーザー装置（YAG/SLT）、レーザー光凝固装置、また手術に使用する機器として手術顕微鏡（Zeiss Lumera700）白内障手術機器（Alcon Centurion）イメージガイドシステム（Verion）を備えています。



■ スタッフ紹介



眼科
部長
そのむら ゆきこ
藺村 有紀子

日本眼科学会眼科専門医



眼科
医員
こばやし れおな
小林 嶺央奈

必要な検査を適切に行い、最適な治療を提案いたします。

皮膚科

子供から大人までのあらゆる皮膚疾患に対応し、皮膚症状だけでなく毛、爪、口唇、陰部など、身体の表面にあられる疾患の診察をしています。

主な対象疾患

- アレルギー、炎症性疾患
じんま疹、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎（かぶれ）、尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、薬疹など
- 皮膚腫瘍
粉瘤、脂肪腫、脂漏性角化症、日光角化症、ボーエン病、基底細胞癌など
- 感染症
蜂窩織炎、丹毒、伝染性膿痂疹（とびひ）などの細菌感染症。単純疱疹、带状疱疹（ヘルペス）、水痘（みずぼうそう）、尋常性ゆうぜい（イボ）などのウィルス感染症。足爪白癬（みずむし）、カンジダ症などの真菌感染症など
- 皮膚潰瘍
熱傷、褥瘡など
- その他
尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡、多汗症、陥入爪、円形脱毛症など

診療科の特色

皮膚疾患に対して最善の治療を行うためには、早期に適切な診断をすることが重要であり、当院では様々な検査を行います（詳細な問診、パッチテスト、プリックテスト、血液検査、ダーモスコピー、皮膚生検、画像検査〈超音波検査、CT、MRI〉など）。診断がついても治療方法は一つとは限りませんので、できるだけ患者さんの希望に添った治療を行うことを心掛けていきます。

尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹などに対して生物学的製剤を使用して治療を行っています（生物学的製剤使用承認施設）。

皮膚腫瘍に対して、診断（皮膚生検、ダーモスコピー、画像検査など）および治療を行っています。

定期手術は水曜日に手術室でしています（予約制）。外来患者の小手術（粉瘤、脂漏性角化症、陥入爪など）は別の曜日に外来処置室で行うこともあります。

抗老化美容外来について（毎週火曜日・水曜日）

年齢とともに生じる肌の変化に対し、医学的な視点からサポートします。一人ひとりの悩みや目的に合わせた治療・ケアを提案し、健康的で若々しい毎日をサポートします。

※抗老化美容外来は保険適用外のため、自費診療となります。



スタッフ紹介

皮膚科
部長

はなだ けいじ
花田 圭司

日本皮膚科学会専門医
日本褥瘡学会認定師
医学博士

（非常勤医員）
（火曜日外来）

やすむら か な こ
安村 香菜子

（非常勤医員）
（水曜日外来）

ふくもと たけし
福本 毅

京都府立医科大学皮膚科学教授



耳・鼻・のど、頸部といろんな部位の病気に対する診断・治療を行っています。

耳鼻咽喉科

耳・鼻・咽頭・喉頭・頸部の様々な部位におけるアレルギー・感染による炎症から、難聴・めまいなど感覚器の障害、音声・嚥下障害の検査など幅広く検査や治療を行っています。

主な対象疾患

- 耳疾患
外耳炎、中耳炎、難聴、めまい、顔面神経麻痺
- 鼻疾患
アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎
- 口腔・咽頭疾患
咽頭炎、扁桃炎、口内炎
- 喉頭疾患
喉頭炎、音声障害（しゃがれ声）
- 頸部疾患
甲状腺腫、リンパ節炎

診療科の特色

現在は週2回、非常勤医師にて外来診察を担当しております。耳・鼻・のどから喉頭・頸部まで幅広く対応しています。非常勤体制ですので、入院や手術加療は原則として行っておりませんが、炎症性疾患や突発性難聴、顔面神経麻痺など急性期の疾患は、通院での点滴加療など可能な範囲で対応しています。入院・手術が必要な場合は、近隣の医療機関と連携して対応するようにしています。

●喉頭内視鏡装置

電子スコープとも呼ばれ、主にのどの奥である喉頭・下咽頭の観察に使用します。NBI（狭帯域光観察）システムという機能もついており、通常の内視鏡では見えない小さな癌も発見できることもあります。静止画像も撮影できますので、患者さんにご自分ののどの様子を見ていただくことができます。



●オージオメータ

きこえの検査に使用する機械です。いろいろな周波数（高さ）の音を、音の大きさを変えて、患者さんの聞こえにくい音の高さ、大きさを調べます。検査結果のグラフを見て、難聴が中耳の病気か内耳の病気か判定することができます。



スタッフ紹介

（非常勤医員）

にしだ けんすけ
西田 健祐

（非常勤医員）

よしざわ こういち
吉澤 宏一

理学療法部門・作業療法部門・言語聴覚療法部門の各スタッフが早期から
良質な訓練プログラムを提供し、患者さんのQOLの維持・向上を目指します。

リハビリテーション科

■主な対象疾患

- 脳血管疾患：脳出血、脳梗塞、脳腫瘍、頭部外傷、パーキンソン病など
- 運動器疾患：骨折、脱臼、腱・靱帯損傷、人工関節術後、関節リウマチなど
- 呼吸器疾患：肺気腫、呼吸不全、肺炎、外科術前・術後の呼吸合併症予防など
- 循環器疾患：心筋梗塞、心不全など
- がん：乳癌、肺癌、胃癌、大腸癌など

■診療科の特色

入院早期から患者さんの病態に合わせたリハビリテーションを実施します。社会復帰や機能に応じて発症前に近いADLの獲得を目指し患者さんのQOLの維持・向上に取り組んでいます。必要な方には訪問や外来などで退院後のフォローも実施しています。

京都府より山城南圏域地域リハビリテーション支援センターに指定され、訪問相談事業や地域のリハビリ従事者に対して研修を開催するなどさまざまな活動を行っています。



■スタッフ紹介



リハビリテーション科
医員
やまなか あや
山中 彩

リハビリテーション科専門医

(非常勤医員)

いとう ともゆき
伊藤 倫之

チームで支えるリハビリテーション治療

回復期リハビリテーション病棟

地域住民と一丸となって、住み慣れた地域で暮らせる希望を持ち続ける、質の高いリハビリテーション医療を提供する。

■主な対象疾患

回復期リハビリテーション病棟入棟対象者は、厚生労働省が定めており、以下の疾患・状態となります。

	対象疾患	最大入院期間
1	脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症又は手術後、義肢装着訓練を要する状態	150日
	高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷	180日
2	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	90日
3	外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後の状態	90日
4	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靱帯損傷後の状態	60日
5	股関節又は膝関節の置換術後の状態	90日
6	急性心筋梗塞、狭心症発作その他の急性発症した心大血管疾患または手術後の状態	90日

■病棟の特色

病気やけがの状態が安定し、機能や能力の改善が認められる時期に、集中的なリハビリテーション治療を行い、家庭復帰、職業復帰を支援する病棟です。また早期の身体能力回復・ADL（日常生活活動）能力改善に向けて、質の高いリハビリテーション治療を365日提供します。

当該病棟には専用のリハビリテーション室を併設しており、より積極的なリハビリテーション治療の提供が可能となっています。また看護師・セラピスト等の連携が密に行える環境であり、「できる能力」から「している能力」の獲得に繋がっています。



自分のために、家族のために「健康で幸せな生活を守るため定期的な健康診断を」

健診センター 人間ドックのご案内

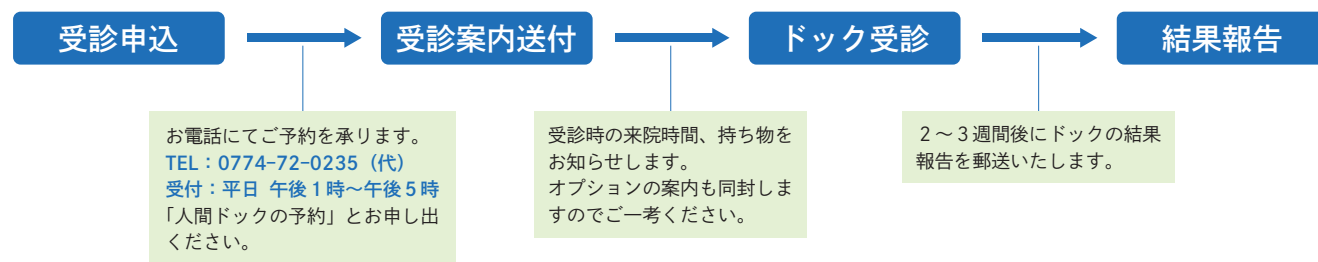
京都山城総合医療センターの人間ドックは、診療と同じ医療機器を使用し、各科の多数の専門医が関わる事により、高度なレベルでの診断を行っています。
病気の予防・早期発見・早期治療のため、現在の健康状態を把握しましょう。

料金案内(税込)

- 人間ドック 46,200円
*追加検診・検査
・子宮がん検診…3,300円(産婦人科内診・細胞診)
・乳がん検診…5,500円(マンモグラフィ2方向)
- 脳ドック 38,500円
頭部MRI・MRA、頸動脈エコーに採血検査など
- 併用ドック 79,200円
人間ドックと脳ドック両方を受けられた場合



受診申込から結果通知まで



人間ドックで見つかる病気

- がん(悪性新生物): 3大死亡原因に長い間ランクインしている病気です。
- 高脂血症: 現代人が憂慮すべき病気のひとつです。
- 糖尿病: 合併症が起こると非常に危険な病気です。
- 脳卒中: 突然発症することが多く、一度罹ると生命に関わる危険な病気です。
- 心筋梗塞: 日本の死亡原因で高い割合を占めている病気のひとつで、発症の予測がカギとなります。



要精密検査になったらどうしたらよいの?

「要精密検査」と判定された方は、専門科の受診をお勧めします。放置せず、早めに対策し、健康寿命への第一歩を踏み出しましょう!

当院では、たくさんの専門医が皆さんの健康をサポートしています。精密検査・治療をご希望の方は当日予約手続が出来ますのでお申し出ください。

詳しくはホームページをご覧ください。か、健診センターまでお問い合わせください。



健診センターへのお問合せ

☎ 0774-72-0235 (代)

受付時間: 平日 午後1時～午後5時

HP: <http://www.yamashiro-hp.jp/users/center1.html>

最新MRIを使った 新たな検診について



AI脳ドックで脳の 健康管理を始めよう

自分の脳の健康状態を 知っていますか?

これまでの脳ドックでは、主に脳動脈瘤、脳腫瘍やかくれ脳梗塞、かくれ脳出血が調べられていました。
AI脳ドックでは、MRI検査と画像解析AIを組合わせて、認知機能と一定の関わりがあるとされる「脳萎縮」「白質病変」(脳血管健康度)を調べることができます。
自分の脳の状態を知り、認知機能に悪影響を及ぼす要素を避けて健やかな生活を送りましょう。

●AIによる脳萎縮・脳血管健康度測定

MRI検査+AIによる画像解析

- ・全脳の構造部位別の体積(萎縮度)
- ・脳の健康度を調べることができます。

同年代比較での「健康度」の評価・「健康度」の経年変化を知り、生活習慣改善の指針に

検査費用 22,000円(税込)

特殊な撮影で負担のない 安心安全の検査を

新しい 乳がん検診



●痛くない・見られない・被ばくしない 無痛MRI乳がん検診(ドゥイブス・サーチ)

- ・痛くない理由
無痛MRI乳がん検診(ドゥイブス・サーチ)は、うつ伏せになり、乳房を丸い穴のなかに垂らして撮影する検査です。乳房を圧迫しないので、はさむ痛みとは無縁で全く痛みがありません。
- ・被ばくしない理由
MRI内部は磁石とコイルでできていて、エックス線(レントゲン)を使用しないため、被ばくが「完全にゼロ」であるという特徴がある。

検査費用 22,000円(税込)

「がん」「脳卒中」「認知症」相談窓口のご案内

がん相談支援センター

「がん相談支援センター」では、診断や治療の状況にかかわらず、どんなタイミングでもがんに関する様々なことを、ソーシャルワーカー（社会福祉士）や専門の看護師に相談することができます。患者さんやそのご家族だけでなく、当院に通院されていない方や地域の専門職の方など、どなたでも無料、匿名でご利用いただけます。

がんの疑いがあると言われたとき、診断から治療、その後の療養生活、さらには社会復帰と、生活全般にわたって疑問や不安を感じたとき、一人で悩まず、お気軽に「がん相談支援センター」にご相談ください。

社会福祉士や専門の看護師にどなたでも無料・匿名で相談可能

※面談をご希望の方は、事前にご連絡をいただけますとスムーズなご案内が可能です。



脳卒中相談窓口



脳卒中で当院に入院中や入院歴のある患者さん、そのご家族がご利用いただけるように、令和5年4月「脳卒中相談窓口」を開設いたしました。

脳卒中に関する治療やケア、リハビリテーションのこと、今後の介護や就労、利用ができる福祉制度のこと、転院先、かかりつけ医のご紹介など、様々な相談に対応させていただきます。

ソーシャルワーカー（社会福祉士）がお話をお伺いして、内容により、医師、看護師、理学療法士、他該当する専門職と連携しながら、支援させていただきます。お気軽にご相談ください。

入院中・入院歴のある患者さん／そのご家族へ 脳卒中の様々な相談へ対応、専門職と連携して支援

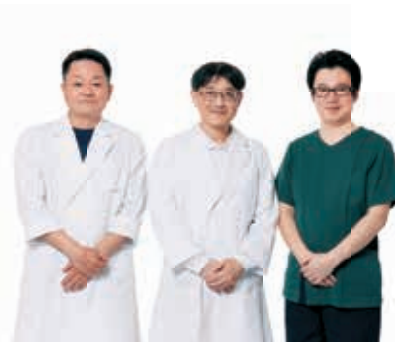
認知症疾患医療センター

認知症疾患医療センターは、認知症の診断や、認知症にともなうお困り事について相談ができる窓口です。

医療、介護、福祉が連携して認知症患者さんやご家族を支えられるよう、医師、看護師、作業療法士、公認心理師、ソーシャルワーカー（社会福祉士）等がサポートさせていただきます。また、地域の関係機関の皆さまとも連携し、認知症があっても住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう支援していきます。

認知症は早期発見、早期診断、早期介入が大切な疾患です。気になったら遠慮なくご相談ください。

認知症について、医師・看護師・作業療法士・公認心理師・社会福祉士等がチームで支援



④医療相談窓口は、1階正面⑤番会計隣にあります。



地域との連携体制について

私たちは住み慣れた地域で、暮らし続けられる体制づくりに努めています。

① 地域包括ケア病棟「彩り（いろどり）」

患者さんが住み慣れた場所で暮らし続けられるよう、個々の生活に合わせた手助けをする彩り豊かな病棟です。

急性期治療後の患者さんを対象に、様々な専門職が在宅復帰支援を行う病棟です。ご家族の介護負担軽減目的で、医療行為により介護施設のショートステイ利用が困難な患者さんの受け入れなど、在宅療養中の患者さんを支える体制を整えています。急性期治療後の退院準備や在宅での介護でお困りの患者さんは、お気軽にご相談ください。

TEL.0774-73-1818

② 介護老人保健施設やましろ

住み慣れた地域でいつまでも生活を送るために…

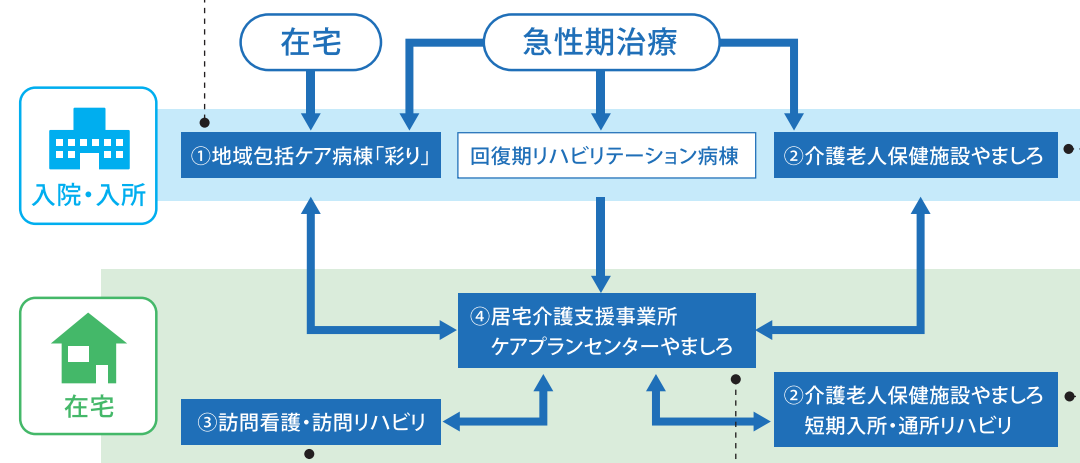
介護を必要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために医師による医学的管理のもと、看護・介護・リハビリテーション、食事・入浴・レクリエーションなどの日常サービスを合わせて提供する施設です。



TEL.0774-73-0359

【事業内容】

- 入所、短期入所、通所リハビリ
- 【対象者・対象エリア】
- 入所：要介護1～要介護5
- 短期入所：要支援1～要介護5
- 通所リハビリ：要支援1～要介護5
- 木津川市、笠置町、和束町、南山城村、精華町



病院（急性期病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟）、居宅介護支援事業所、介護老人保健施設、訪問看護、訪問リハビリが一体となって、切れ目のない医療、介護体制を整備しています。

※他事業所の介護サービスの利用も調整させていただきます。
※回復期リハビリテーション病棟の詳細はP28に掲載しております。

③ 訪問看護・訪問リハビリ

自宅で患者さんが自分らしく生活できるようサポートすることが一番のやりがいです。

訪問看護では、急性期病院の特徴から医療度の高い患者さんの訪問看護を、訪問リハビリでは退院後の日常生活の自立と社会参加を目的とした在宅リハビリを行っています。医師や様々な在宅チームと連携し、住み慣れた自宅で患者さんらしい生活が過ごせるようサポートし、心に寄り添える支援を目指しています。

【対象者・対象エリア】

- 医療度の高い方
- 要支援1～要介護5と認定された方
- 木津川市、笠置町、和束町、南山城村、精華町

TEL.0774-72-0235（代表）

④ 居宅介護支援事業所 ケアプランセンターやましろ

皆さまが安心してこの地域で住み続けられるお手伝いをさせていただきます。

令和4年4月、新たな事業として開設しました。

【事業内容】

- 要介護認定の代行申請
- 介護を必要とする方やご家族の相談と援助
- 居宅サービス計画（ケアプラン）の作成
- 介護サービス提供事業所、医療機関、市町村等との連絡や調整

【対象者・対象エリア】

- 要介護1～要介護5と認定された方
- 木津川市、笠置町、和束町、南山城村、精華町

TEL.0774-71-0039